

製品名: GRK 2 (リン酸化 Ser685) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04750**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	80kDa

抗原情報

遺伝子名	ADRBK1
別名	ADRBK1; BARK; BARK1; GRK2; Beta-adrenergic receptor kinase 1; Beta-ARK-1; G-protein coupled receptor kinase 2
遺伝子 ID	156.0
SwissProt ID	P25098
免疫原	抗血清は、Ser685 のリン酸化部位周辺のヒト GRK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 640-689

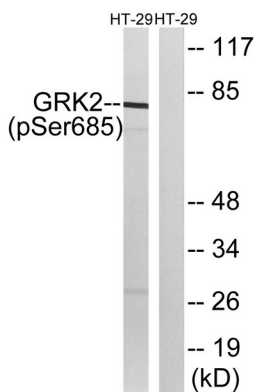
背景

この遺伝子産物はβ2アドレナリン受容体をリン酸化して、高濃度アゴニストで観察されるアゴニスト特異的な脱感作を媒介すると考えられます。このタンパク質は、普遍的に細胞質に存在する酵素であり、βアドレナリン受容体および関連するGタンパク質共役受容体の活性型を特異的にリン酸化します。βアドレナリン受容体とGタンパク質の異常な共役は、心不全の病態形成に関与しています。[RefSeq提供、2008年7月],触媒活性: ATP + [βアドレナリン受容体] = ADP + [βアドレナリン受容体]リン酸。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リンタンパク質。機能: βアドレナリン受容体および密接に関連した受容体のアゴニスト占有型を特異的にリン酸化して、おそらくそれらの脱感作を誘導します。、オンライン情報: βアドレナリン受容体キナーゼエントリ,類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。GPRKサブファミリー。、類似性: AGCキナーゼC末端ドメインを1つ含む。、類似性: PHドメインを1つ含む。、類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。、類似性: RGSドメインを1つ含む。、サブユニット: GIT1と相互作用する(類似性による)。ケモカイン刺激を受けたCCR5と相互作用し、リン酸化を行う。、組織特異性: 末梢血白血球に発現する。、

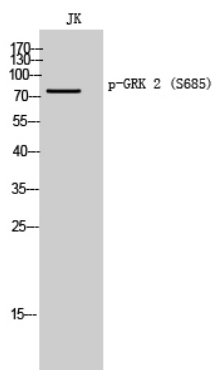
研究分野

ケモカイン;エンドサイトーシス;

画像データ



GRK2 (リン酸化 Ser685) 抗体を用いた、インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した HT29 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 GRK 2 (S685) ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた JK 細胞のウェスタンブロット解析